

滋賀縣人

第203号

発行所

一般社団法人 東京滋賀県人会

東京都中央区東日本橋3-6-20-205
電話 03 (3661) 1180 郵便振替 00180-4-26966
FAX 03 (3661) 5058

発行日 令和6年3月10日

発行人 小林洋一

Contents

- 会長挨拶 3
- 令和6年新年会 4
- 令和5年近江ゆかりの会 6
- 県人会の活動 8
- 投稿コーナー 10
- 「ここ滋賀」 14
- 今も変わらぬまちづくりへの想い 16
- 近江商人の精神の体現を目指して 17
- 甲賀市インフォメーション 18
- カメラで巡る
滋賀県の国宝建造物を訪ねる旅 (前編) 20
- 事務局より 24

第35回 琵琶湖夢街道

大近江展

令和6年3月20日(水・祝)~25日(月)

連日 午前10時30分~午後7時30分
※最終日は午後6時閉場

日本橋 高島屋 S.C 本館8階催会場
東京都中央区日本橋 2-4-1

芸術の翼、はばたく。
滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

Biwako Hall Center for the Performing Arts, Shiga

●びわ湖ホールチケットセンター

TEL 077-523-7136 10:00 ~ 19:00 火曜休館
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15-1

びわ湖ホール 検索

<https://www.biwako-hall.or.jp/>



東京滋賀県人会の皆さまには、ご家族共々お変わりなきことと拝察し心よ

りお慶び申し上げます。年始早々に「能登半島地震」が発生し、多くの方々が亡くなり、未だに行方の分からない人達もおられます。亡くなられた方々に対し謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災され今もなお避難を余儀なくされている方々に対して、心よりお見舞い申し上げます。

能登半島という素晴らしい自然を有する一方で複雑な地形でもあったためか、今回の地震と津波により道路網が寸断され、多くの家屋が倒壊・焼失するという悲劇的な状況となっております。発生から既に三か月が経っていますが、交通インフラの整備と電気・ガス・水道のライフラインが急ピッチで復旧しつつあります。一部では仮設住宅の建設も開始されましたし、食事等の生活面のみならず多くの医療関係者が現地を訪問して医療面での支援をされています。多くのボランティアの皆さまか

らも一日も早く現地に向いて被災者の方々に支援したいとの力強い声が多く上がっており、少しずつ受け入れ準備が整いつつあるようです。

一九九五年（平成七年）一月に発生した阪神・淡路大震災や二〇一一年（平成二十三年）三月に発生した東日本大震災の際には、多くの犠牲者を含む未曾有の被害が発生しましたが、自衛隊は勿論のこと全国から多くの人達が現地を訪問し力強く支援されました。そして今ではほぼ復興をとげ、徐々に力強く新たなステージに進みだされています。能登半島の被災地の日も早い復旧・復興と、避難を余儀なくされている多くの方々がまた生まれ故郷に帰れますようにと切に祈るばかりです。

東京滋賀県人会の活動ですが、県人会最大のイベントである「近江ゆかりの会」が、昨年十一月に白金台の「八芳園」で四年ぶりに本来の形式で開催されました。

また、県人会のもう一つのイベントである「新年会」を、去る二月八日に丸の内「Alice aqua garden Tokyo丸の内」にて開催し、多くの会員の皆さま方にお集まりいた

き、親睦と交流を通じてふる里滋賀の絆を強めるいい機会になりました。

「近江ゆかりの会」と「新年会」につきましては、次ページ以降に写真を含めて報告していきますのでご参照ください。

本年度の県人会活動も、昨年度同様「ここ滋賀」等でのイベントやAKINDO塾を開催しております。また、昨年度好評を博した「滋賀の歴史夜話」、「ビジネス交流会」など新しい企画やイベントを開催していきたいと思えます。詳細なご案内については昨年十月にリニューアルしました「東京滋賀県人会ウェブサイト」に掲載しておりますのでご参照ください。

今後とも会員の皆さまや関係者各位のご協力をいただきながら、様々なイベントの開催と皆さまとの交流に努めていきたいと思えますので何卒よろしくお願い申し上げます。最後に、ふる里滋賀と東京滋賀県人会の益々の発展と会員の皆さま方のご多幸・ご健勝を心からご祈念申し上げます。

◎第三五回琵琶湖夢街道大近江展 開催のお知らせ

毎年恒例の大近江展、今年は左記の日程で開催予定です。

鮎ずし・近江牛はじめ郷土の旬の食材・近江のお茶・地酒・和菓子などの魅力あふれる食品から手元に置いておきたい伝統工芸品まで、厳選された近江の品々を手に取り、ぜひふるさとに思いを馳せて下さい。

日時：令和六年三月二十日（水・祝）～二十五日（月）

場所：日本橋高島屋S.C. 八階催会場

JR東京駅八重洲北口から徒歩五分

東京メトロ銀座線・東西線日本橋駅直結

都営地下鉄浅草線日本橋駅から徒歩四分

主催：（公社）びわこビジターズビューロー

協賛：（一社）東京滋賀県人会ほか

ご来店いただいた県人会員の皆さまには、東京滋賀県人会から粗品を進呈いたします。

その他出展店舗等の詳細は、同封のチラシをご覧ください。



会新年会 開催!



令和6年 東京滋賀県人

今年の県人会活動のトップを飾る令和六年東京滋賀県人会新年会を、2月8日（木）18時から「Alice aqua garden Tokyo丸の内」（東京駅から徒歩5分、東京メトロ二重橋駅直結）にて開催いたしました。東京都をはじめ、首都圏各地、滋賀県からも70名以上の会員が参加。新年らしい和やかな雰囲気のもと、互いの健康と益々の発展を祈念しました。



りの会」を開催しました！



コロナ禍による中止や昨年の特例昼食会形式を経て、4年ぶりの大規模開催となった今回は、三日月知事、田原総一郎ゆかりの会特別顧問をはじめ、首都圏・滋賀県から約230名が参加。恒例のびわ湖ホール声楽アンサンブルコンサートから始まり

東京滋賀県人会 会長
小林洋一の熱き一言

滋賀県知事 三日月大造様
の挨拶で会場也大盛況



参加者の皆さまが旧知の方々や新しく出会った方々と交流を深めるうちに、あっという間に終了の時間に。全員が輪になって歌う締め「琵琶湖周航の歌」が、例年よりさらにひとときわ高らかに響いた秋の一夜でした。

令和5年度 「近江ゆか

ワ・キ・ア・イ・ア・イ



首都圏における滋賀魅力体験創造に向け、滋賀県ゆかりの人ネットワークの構築を図り、新たなビジネスチャンスの創出、「滋賀・びわ湖ブランド」の発信及びふるさと滋賀のファンづくりを目指して開催されてきた「近江ゆかりの会」。

令和5年度は11月22日（水）に港区白金台の八芳園にて開催しました。



今回初の試みとして、料理は滋賀県産の食材を用い、「割烹 近江路 豊郷」の西山店主がプロデュース、近江の地酒を楽しみつつ、趣向を凝らしたメニューを堪能。



プレゼント引換券をお持ちの方はこちら



鮭の会

毎月第一火曜日を原則開催日とし、滋賀に所縁のあるマスコミ各社、滋賀銀行、滋賀県、「ここ滋賀」、さらに首都圏の各県人会が一堂に会し、イベントの実施予定など周知情報を持ちより、首都圏での情報共有化、マスコミへの取材要請などに努めています。

お声掛け運動

平成三十年十月より、事務局から七十五歳以上の会員（百名弱）の方にお電話による「お声掛け運動」を実施（不定期）し、今までに、おおよそ対象者に二十巡ほどお電話をかけ、日常のお話、ご相談、県人会活動に対するご意見などを伺っています。

幹部会

令和二年七月一日（水）を皮切りに、毎月一回ペースで会長、副会長や専務理事、常務理事等が当会の主要活動の推進や組織強化、全滋連、関東ブロックへのかかわり方などを議論する幹部会をスタートしました。現在まで、「ここ滋賀」などにおけるイベントの推進、会報やHPの改善策が具体化されています。

理事会のご報告

令和六年二月二十七日（火） アットビジネスセンター 八重洲にて開催。会長による一般的な活動報告のあと、令和五年度中間決算の報告を審議しました。

AKINDO塾

塚本東京滋賀県人会副会長を塾頭に、滋賀県に所縁のある人々や会員同士の人脉形成、ネットワークの構築、知識の向上を支援する目的で、平成二十八年秋以降「AKINDO塾」を定期的に開催しています。

次回第十八回は、五月十三日（月）十八時から「ここ滋賀」二階「近江牛もりしま寛閑観」で、講談の旭堂南風師を講師に、『紫式部と月と源氏物語』〜紫式部が源氏物語を描くに至るストーリー〜を語っていただく予定です。
師は、滋賀県在住唯一の講談師で、大津市瀬田のご出身です。



第15回AKINDO塾の様子

訃報

埼玉滋賀県人会の会長として、全国・関東ブロックの県人会活動に長らく貢献いただいた中村文雄氏が、一月二十七日にご逝去されました。

謹んでご報告させていただきます。

お知らせ

坂本城は、近江国滋賀郡を領した明智光秀によつて一五七一年に築かれた、琵琶湖に面した水城です。現在地上には遺構はほぼ残っていませんが、琵琶湖の水中には若干の石垣の痕跡が眠っています。この石垣が二〇二三年十一月から十二月にかけての琵琶湖の水位低下によつてその姿を現しました。

二月には、宅地開発に伴う発掘調査により約三十mもの長さにわたる外堀の石垣が発掘されたとの発表がありました。また、近年の水中探査技術の進展により、琵琶湖のさらに深い部分にも遺構が存在することが確認されています。「幻の城」とされた坂本城の更なる実態解明に期待が高まります。

詳細な報告記事は東京滋賀県人会ウェブサイトで！



湖底より姿を現した坂本城の石垣



滋賀の歴史夜話

東京滋賀県人会公式チャンネル
YouTube講座

東京滋賀県人会が展開する「滋賀の歴史夜話」YouTubeプロジェクトは、滋賀県の歴史と文化の魅力を広範囲に伝え、多くの方に滋賀県への関心を持っていただくことを目的としています。

今年度の事業内容は、大河ドラマ『どうする家康』の人气を活用し、家康に挑んだ武将・石田三成の波乱に満ちた人生と戦略を、滋賀県内の歴史的史跡を巡りながら紹介することです。

太田浩司先生による解説を含む四話構成の動画シリーズは、三成の生き様を通じて、滋賀県が持つ深い歴史的背景に光を当てます。このプロジェクトは、滋賀県の歴史的魅力の重要性を伝えるとともに、デジタル配信を通じて、世界中どこからでもアクセス可能な形で滋賀県の美しさを届けることを目指しています。YouTubeというプラットフォームを利用することで、視聴者は自宅にいながらにして滋賀県の史跡を仮想訪問し、その地の物語に没入することができ、これにより、滋賀県への理解を深め、将来的な訪問者の増加を促すことを期待しています。そして、この動画シリーズを通じて、滋賀県の豊かな歴史資産と文化の魅力を再発見し、新たな滋賀ファンや関係人口の創出を目指します。このプロジェクトに込めた熱い思いと、滋賀県の誇る歴史が秘めた真の魅力を、より多くの方に伝えたいと考えています。

ぜひ、この機会に公式YouTubeチャンネルから「滋賀の歴史夜話」をご覧いただき、滋賀県の深い魅力に触れてください。
滋賀の歴史夜話

担当 内田真由子



淡海歴史文化研究所
太田 浩司 先生
おた ひろし



令和五年度のテーマ(全四話)
家康に挑んだ武将
石田三成徹底解析!

第1話
三成の誕生と秀吉仕官



第2話
秀吉家臣・奉行としての姿



第3話
三成の居城佐和山と城下町



第4話
関ヶ原合戦の三成戦略と逃避行



ビジネス交流会

新たなプラットフォーム

ビジネス交流会

「近江ゆかりの会」で実現
マルシェ開催

十一月二十二日に開催された「近江ゆかりの会」で、それは実現しました。Zoomミーティングでふと出たアイデア、ビジネス交流会メンバーによる「マルシェ」開催です。

現役世代の新たなプラットフォームとして、令和四年度よりスタートしたビジネス交流会。県人会活動の活発化、事業者同士のネットワークやコミュニケーションを広げ深めること、東京と滋賀の交流を促し、関係人口を増やすことを目的として活動しています。



(株) 鹿深サービス



丘峰喫茶店



愛荘町地域おこし協力隊



当会会員様に当店希望者を募り、株式会社鹿深サービス、愛荘町地域おこし協力隊、丘峰喫茶店に出店いただきました。「近江ゆかりの会」にご出席のゲストの方々にお越しいただき、各出店者との間にまた一つビジネスチャンスや絆が生まれました。

最後に、マルシェ開催に際してご協力くださった滋賀県東京本部の皆様、八芳園に感謝申し上げます。(文中敬称略)
ビジネス交流会 担当 新田崇信

牛肉だけじゃない、商人だけじゃない

―近江に、そして日本に生まれてよかった―

一般社団法人 おいしさの科学研究所 理事長 **山野 善正**
 (東京滋賀県人会 会員)



山野 善正氏

近江はハートランドともいわれるように日本列島の中心に位置し、古くから物、人の往来が盛んに行われてきました。その結果、各地の情報が集積し、近江商人が発祥し、

ブルラッキーなのです。さらに、現在食に関わる仕事をしている立場から見ても、近江には立派な食材・食品が存在すると思われまます。以下に示す和歌は蒲生野を歌ったものですが、おそらく畑に育った菜を歌っているのです。ワーズワースの作品にも、サップオーの詩にも見られない、歌材なのです。

君がため 春の野に出でて 若菜つむ
 わが衣手に 雪は降りつつ 光孝天皇

「売り手よし、買い手よし、世間よし」という標語が生まれ、また、日本海から琵琶湖を通って大津や浪花まで通じていたこと、さらに壬申の乱や関ヶ原の戦いなど歴史的な出来事がありました。実は、商業と同時に工芸も発達し、石工(穴太)、鉄砲鍛冶(国友)、焼き物(信楽)などの職人の技が生まれ維持されてきました。

加工品としても、「鮒ずし」があまりにも有名ですが、筆者の郷里にしかない「赤こんにゃく」はまさに独壇場と言えます。ついでに言えば、同じく近江八幡が発祥地である和菓子「たねや」は今や老舗の虎屋と対抗する位置にあります。近江は商人だけでなく、はじめに述べたように、多くの職種に優れた技術が存在したのです。

さらに、日本一大きい琵琶湖を有し、琵琶湖にしかない魚種が多数存在し、気候と水に恵まれて、コメ(日本晴)や野菜にも特産品が多く生まれました。

現在では、近江牛が特産品として認められています。上記のように、多くの特産物、魚介類、及びその加工品、料理が多く存在します。

以上の歴史、状況を踏まえ、特産品の啓蒙と、ブランド化

のため、次の二点を進めればと思う次第です。

- ① 近江特産品のおいしさを見える化(センサー、官能検査などによりデータサイエンス)してブランド化、販売促進する。
- ② 近江特有の産物、料理を文化的、科学的観点から記述した本を出版する。

ご参考までに、筆者所持の滋賀に関する書籍(発行年順)を列挙しておきます。

助野健太郎・小和田哲男・近江の城下町 桜楓社(1971)
 白洲正子・近江山河抄 講談社(1994)
 畑中 井戸、林、中井、藤田、池田・滋賀県の歴史(県史25) 山川出版社(1997)
 滋賀の食文化研究会・くらしを彩る近江の漬物 淡海文庫(1998)
 末永國紀・近江商人 現代を生き抜くビジネスの指針 中公新書(2000)
 八木幸子、目片智子・比叡ゆばから始まるおいしい話 西日本出版社(2005)
 今谷明・近江から日本史を見直す 講談社(2007)
 岡野忠雄・琵琶湖三十三万八千歩 交通新聞社(2007)
 滋賀の食文化研究会・食べ伝えよう滋賀の食材 サンライズ出版(2012)
 南びわ湖巡り研究会・日本歴史を動かした母なる近江(2017)
 丁野永正・八日市民謡 江州音頭 サンライズ出版(2017)
 近江八幡市・近江八幡の歴史 第8巻 通史Ⅲ(2019)
 姫野カオルコ・忍びの滋賀 いつも京都の日陰で 小学館新書(2019)



八幡堀の桜

映画『翔んで埼玉』

〜琵琶湖より愛をこめて〜

表敬「謝罪」会見

滋賀ロケーションオフィス 有田 高志

映画『翔んで埼玉』琵琶湖より愛をこめて』表敬「謝罪」会見が、十月十九日に東京都内で行われ、壇ノ浦百美役の二階堂ふみさん、下川信男役の加藤諒さん、武内英樹監督が、大野元裕・埼玉県知事と三日月大造・武内監督は「滋賀県を巻き込んでしまい申し訳ございませんでした」と滋賀県知事に「謝罪」。あわせて、「愛あるデイスリをしているので、寛大な心で鑑賞してください」と訴えました。



三日月知事の反応は?!
まさかの「飛び火」をどう思ったかと聞かれた三日月知事。「埼玉はいいけどなんで滋賀県まで巻き込むねん!」というのが最初の印象だったんですけど、映画を見てみると琵琶湖に対する愛とか、人の優しさとか、とびだしとび太くんの活躍とか、いろんなところに愛が溢れていましたので、僕もこの映画を通じて誇りとか、滋賀県に対する愛情がまた湧けばいいなって応援していきたいと思います」とコメントしました。



二階堂ふみさんが行ってみたい場所はどこ?!

滋賀で行ってみたい場所を聞かれた二階堂ふみさんは、「私は『探偵ナイトスクープ』がすごく好きで、番組によく出ていた南郷水産センターと美富士食堂にはずっと行きたいなと思っておりまして、今回のキャンペーンで行けないかなと思っっています」と発言。これを聞いた三日月知事は「ぜひご案内しますよ!」と目を輝かせました。



美富士食堂
大盛りメニューが有名な定食屋さん。1959年創業の老舗でアットホームな雰囲気も魅力。
住所：大津市膳所2-8-6
電話：077-522-8135



南郷水産センター
釣って、つかんで、触れて、食べて…。じかに魚と触れ合える「さかなと遊べるパラダイス」
住所：大津市黒津4-4-1
電話：077-546-1153



滋賀が舞台に選ばれた決め手は、滋賀ロケーションオフィス?

本作のきっかけを聞かれた武内監督は「関西でこの話を作るのはどこの県をメインにすればいいんだろうと意見を聞いたところ、どうやら滋賀が埼玉県のポジションだということが分かって：現地のフィルムコミッション（滋賀ロケーションオフィス）からの熱心なアピールもあってやらせていただくことになりました」と滋賀が舞台になった経緯を明かしました。

作品に込められたテーマは?

最後の挨拶で二階堂ふみさんは「この映画は、分断や人と人の対立がこんなに馬鹿馬鹿しいものなんだということや、人と人が交じりあっていく大切さや平和への願いを込めた作品でもあるので、是非、映画を観に来ていただいて、多くの方に楽しく笑顔になっていただけたらと思います」と記者会見を締めくくりました。



彦根市雨壺山「徳川家康陣所」説明板建立顛末記

淡海歴史文化研究所 所長 太田 浩司（東京滋賀県人会 会員）



太田 浩司氏

建立に至る経緯

私は昨年度に、東京滋賀県人会チャンネル（オンライン講演、現在もYouTubeで配信）で、「滋賀の歴史夜話」五回シリーズとして、戦国武将と近江の関わりを解説させていただいた。その四回目は、令和四年十二月三十日に行なった「徳川家康と近江」。このシリーズでは、私からの講演（夜話）終了後に視聴者とのオンライン茶話会をするのが通例だったが、この回では、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原合戦二日後に当たる九月十七日、徳川家康による石田三成の居城・佐和山攻撃の時、彦根市雨壺山（彦

根市芹川町・後三条町など）が家康陣所となった話題が出た。

さらに、昨年八月に、オンライン茶話会でお話ししていた県人会の方から、「昔は、家康陣所跡の「謂れ」を記した木製看板が、彦根市雨壺山南部の火葬場の跡地西面に立っていたが、今登っても看板はなく、非常に残念な思いをしている」とのメールをいただいた。

そこで、一念発起、大河ドラマ「どうする家康」が放映されていた年でもあるので、ドラマが終わらない内に、元のように家康陣所跡を示すサインを建立したいと思いついた。長浜城歴史博物館に勤務していた平成十六年、秀吉の長浜城下町跡地に、旧町名や朱印地（免租地）境界等の石碑・石柱「百二十三基」、続いて平成二十八年に小谷城周辺史跡に説明看板「三十二基」を、いずれも市民と共に建立した経験がある私の血が

騒ぎ始めたのである。

建立事業の開始

しかし、建立場所は彦根市である。長浜市に住み、そこで働いて来た私のみでは、肝心な地の利がないし、さらに共感者も集めにくい。そこで、以前から石田三成顕彰の件でお世話になっている佐和山城研究会代表の田附清子氏に相談を持ち掛けた。田附氏は一も二もなく同意していただいた。田附氏の言動は実に心強く、以降の事業は二人三脚で進めることになる。

建立場所は、以前の雨壺山南部の火葬場跡地では、佐和山城が望めないのです。陣所から降りて来た家康が愛でたと伝わる紅梅が現存する長久寺（後三条町）背後の山上と決めた。これも、田附氏の提案であった。この地は、南北に六百メートルある雨壺山の最北端に当たり、佐和山城はもとより彦根城もよく望める地点であった。山頂部分には東屋も建っている。

募金活動は九月から開始した。建立には十五万円ほどの経費がかかると見込んでいたが、その手法は「クラウド・ファンディング」などで広く資金を募るのではなく、田附氏と私の知り合いだけを頼って募金を集める「アナログ・ファンディング」で行なうことを決めた。募金を始めてみると、歴史や城郭愛好家、研究者、彦根市や長浜市の職員、彦根市や米原市の企業、そして東京滋賀県人会の皆様から、多くの応募の意志が伝えられ、最終的には団体八件、個人二十一件、合計二十九件の申し出があり、十九万五千円の資金を得ることができた。



雨壺山に立つ徳川家康陣所説明板。奥に見える山が佐和山城跡



除幕式の様子

説明板除幕式と今後

また、掲示する説明板の解説文作成については、彦根市文化財課・彦根城博物館の技師・学芸員や元職員から知見を得た。建立場所は彦根市所有の公園地内であったので、土地占用にあたっては、彦根市都市計画課の手も煩わせる形となった。そして、十一月十一日（彦根では俗に「井伊の日」と呼ぶらしい）の土曜日、午前十時から晴天のなか城郭ライターの萩原さちこ氏の他、三十人あまりの参加者があるなか、建立場所の説明板の序幕式を行なった。主催者（佐和山城研究会・淡海歴史文化研究所）を代表して田附氏の挨拶があり、続いて萩原氏の祝辞、私の「徳川家康の佐和山城攻撃と戦後処理」と題するミニ講演が行なわれた。

説明板建立の日は、大河ドラマ「どうする家康」で関ヶ原合戦が描かれる前日であった。実にタイミングよく建立できたのは、気持ちよく出資いただいた寄附

者の皆様と、素早く的確に行動いただいた田附氏のおかげであった。今後、この説明板が地域の歴史を知るきっかけとなり、彦根市の観光施策に役立つことを望んでいる。

歴史上で起きた事件は、多くその場所に痕跡を留めないことが多い。その中で、説明板や石碑を建立することで「見えない歴史を見るようにする」ことが可能になる。地域の歴史を身近に感じていただく手段として、また滋賀県各地で新たな名所づくりを行なうため、説明板や石碑の建立が、もっと広がればよいと思う。

《説明板の全文》

徳川家康が陣した雨壺山

彦根市芹川町・後三条町ほか

慶長五年（一六〇〇）九月十五日、石田三成と徳川家康が戦った天下分け目の合戦が、美濃国関ヶ原でありました。

敗れた三成は、伊吹山の麓を伊香郡古橋（長浜市木之本町古橋）に向かって逃走しますが、勝った家康は三成の居城である佐和山を攻撃します。佐和山城には、三成の父・正継と、兄・正澄が籠城していましたが、衆寡敵せず十七日に落城してしまいました。

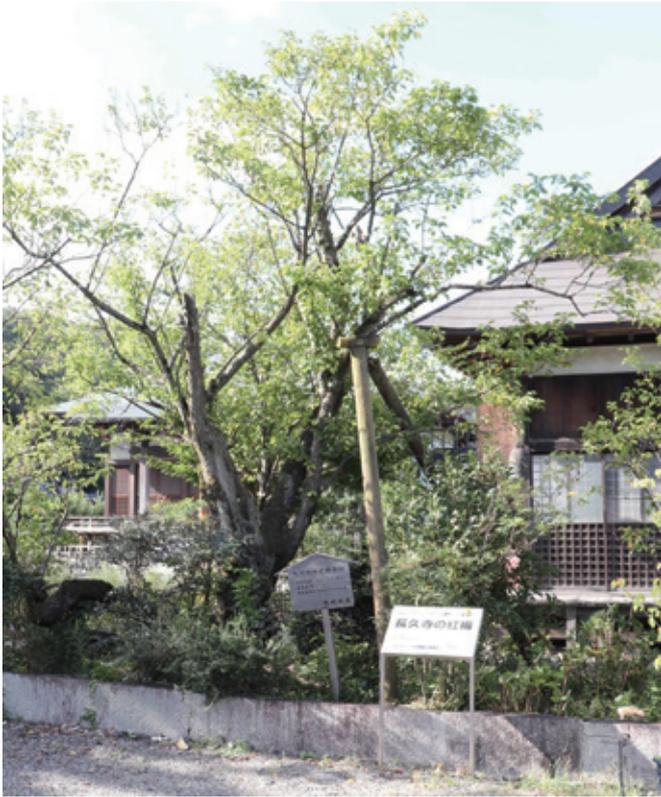
この佐和山城攻撃を、徳川家康は雨壺山から指揮したと言われています。『井伊年譜』などに見える「沼波平田山」とは、この雨壺山を指すと思われる。今も山の北端（麓の長久寺から少し登った場所、当地）から、伊吹山を背景にして、佐和山城が遠望できます。この地に佇むと、敗戦後、居城に帰れなかった三成の無念、戦いに勝ち意気揚々たる家康の姿が重なり合っただけに見えるようです。

家康はこの後、「（家康の）吉例道きり例のみち」さらに後年「朝鮮人街道」と呼ばれる琵琶湖寄りの道を通り大津城に凱旋。そこで古橋から連行された三成と対面するのです。

令和五年十一月吉日

佐和山城研究会

淡海歴史文化研究所



家康が愛でたという長久寺の紅梅



雨壺山の麓にある長久寺

3つのトレンドを紹介!



特別ランチ
「北琵琶湖めぐり御膳」

開館六周年を迎えた「ここ滋賀」

これからもよろしくお願ひします!

日本橋の滋賀県情報発信拠点「ここ滋賀」は、令和五年十月二十九日(日)に六周年を迎えました。これもひとえに、平成二十九年の開館以来、東京滋賀県人会の皆様をはじめ、多くの方々からご支援をいただいたおかげです。ありがとうございます。

徐々に暖かく感じる日も増えてきて、店内は連日多くのお客様で賑わっています。この記事では、そんな「ここ滋賀」の最近のトレンドとも言える、三つのトピックについてご紹介いたします。

開館六周年記念 「北琵琶湖まつり」

「ここ滋賀」の開館記念日十月二十九日を中心に、滋賀県北部地域(長浜市、高島市、米原市)の様々な魅力を発信するイベント、題して「北琵琶湖まつり」を開催しました。

一階マーケットでは三市の特産品フェアを開催。和栗のでっち羊羹やアドベリー商品、伊吹そばなどを三市の紹介も交えて販売し、ご来店のお客様に商品を通して魅力を感じていただきました。

二階レストランでは三市の特産品をふんだんに使用した特別ランチ「北琵琶湖めぐり御膳」を提供。一湖房の鴨ロースや魚治のふな寿司、針江のんきいふあーむの新米、伊吹そばなど、北琵琶湖の食材を贅沢に使った料理をお楽しみいただきました。



高島市



長浜市



米原市

十月二十九日当日、「ここ滋賀」横の屋外スペースでは、三市の魅力を発信する多彩なブースが出店。各市観光協会による特産品の試飲、試食、販売に加え、北琵琶湖に生息する淡水魚を鑑賞したり、カエルと触れあえる移動水族館など、「ここ滋賀」周辺をご通行の皆様にも北部地域の魅力を感じていただきました。

他にも、「北の近江」の仏像のフォーラムや長浜市への移住者女性八人のチーム「イカハッチンプロダクション」のワークショップも開催し、首都圏の方々に三市の魅力を多方向から存分に体感していただきました。

「ここ滋賀」×「そびあ」

映画の飛び火、ありがたく浴びさせていただきますフェア

滋賀県と埼玉県が舞台となった映画『翔んで埼玉〜琵琶湖より愛をこめて〜』の公開を記念して、「ここ滋賀」は埼玉県の物産観光館「そびあ」とコラボし、令和五年十一月二十三日（木・祝）から十二月十日（日）まで「ここ滋賀×そびあ 映画の飛び火、ありがたく浴びさせていただきますフェア」を開催しました。

映画で『そこら辺の害虫でも食べといたらよらしい』と言われた滋賀県民と『そこら辺の草でも食わせておけ』と言われた埼玉県民が共同戦線を張り、両県の多彩な魅力を発信するため、「ここ滋賀」では埼玉県の、「そびあ」では滋賀県の映画関連商品を互いに販売しました。数量限定で入荷した埼玉県の「十万石まんじゅう」は、映画とのコラボパッケージであったこともあり、初日に完売するほどの人気でした。

また、「ここ滋賀」では、五百円（税込）以上お買い上げのお客様を対象に「ここ滋賀」オリジナルゲジゲジナンバーステッカーをプレゼントしたほか、通り沿いの窓ガラスへは「とびだしとび太」を掲示しました。映画でも滋賀県のために大活躍したとび太くんは、「ここ滋賀」を訪れるお客様をも笑顔にしてくれています。



埼玉県の「十万石まんじゅう」



「ここ滋賀」オリジナルゲジゲジナンバーステッカー



映画でも滋賀県のために大活躍した「とび太くん」

平安浪漫を感じよう 「平安フェア」を開催！

令和六年一月七日（日）に放映開始されたドラマ「光る君へ」。主人公の紫式部は、石山寺から見た琵琶湖に映る満月を見て、源氏物語を起筆したと伝わります。



「ここ滋賀」オリジナル商品「平安ふくさ」

「ここ滋賀」では紫式部ゆかりの地・滋賀県の平安浪漫を感じられるフェアを開催しました。

株式会社清原様とのコラボレーションで誕生した「ここ滋賀」オリジナル商品「平安ふくさ」をはじめ、百人一首を模した菓子などを販売したほか、紫式部や源氏物語に関連する商品を販売するイベントを開催。平安時代や紫式部をテーマとしたワークショップやトークセッションも開催しました。

「ここ滋賀」オリジナル旅行商品の一つ、「びわ湖さんぽ〜紫式部ゆかりの地を巡ろう〜」も引き続き販売中です。紫式部が生きた地を巡ろうと、お客様は楽しそうに大津エリアを中心としたご旅行のご相談やお申込をしております。



日々の運営に併せて、滋賀県の魅力を発信する様々なイベント等も実施している「ここ滋賀」。二月には、二月二十二日の「忍者の日」にちなんだマーケットフェアや特別メニュー、ワークショップにクイズラリーを開催し、多くのお客様にお楽しみいただきました。

春の訪れが待ち遠しい毎日ではございますが、「ここ滋賀」ではこれからも、滋賀県の特産品、美味しい地酒、お料理、イベントや旅の案内などを通して、首都圏の皆様へ滋賀県の魅力を発信していきます。



〒103-0027 東京都中央区日本橋2-7-1
 営業時間：1F マーケット・バー・総合案内 10:00～20:00 TEL03-6281-9871
 2F レストラン 平日 11:30～14:30/17:00～22:00 TEL03-6281-9872
 土日祝 11:30～15:30/17:00～21:00

※営業時間は変更となる場合がございます。

定休日：年末年始

<https://cocoshiga.jp/>

東京メトロ、都営地下鉄日本橋駅B6・B8出口からすぐ

JR東京駅八重洲北口から徒歩6分

無料巡回バス/メトロリンク日本橋駅「地下鉄日本橋」停留所最寄り（東京駅八重洲口より約10分間隔で運行）



公式HP



オンラインショップ

今も変わらぬまじりぐりの想い

東京滋賀県人会 理事 居川 信彦

私の家は、一九二六年より代々和菓子屋を営んでおり、私で四代目になります。地元では、どっち羊羹が美味しい和菓子屋さんとして、冠婚葬祭やお土産などによく使っていたりしております。大学を卒業したら和菓子屋に入って商売をしようと決めていましたので、京都産業大学経営学部を卒業後、そのまま父と母が二人で店を切り盛りしている木之本町に帰りました。それから二年後、代を継いだのは二十四歳のお盆のことでした。

その年の父の兄弟の集まりの際に、父は私に「お盆の干菓子を作っておけ」と言って出かけていきました。少し酔っ払って帰ってきた父は、私の作った干菓子を手にしました。自分では完璧に作ったつもりでしたが、あつけなく干菓子は、父の手の上でほろほろと崩れました。父は、一言「お前は何しとったんや、ちゃんとお父さんが教えたやろ！ あほかー！」と言いました。

そこから喧嘩になり「そんなことをいうんやったら、お前が勝手にやれ」と言われ、レシピも帳面のつけ方も知らないまま、代を継ぐことになりました。

そんな中で作るお菓子ですので、当然美味しくできるはずもなく、店の評判は瞬く間に下がっていき、初年度の売り上げは父がやっていた前年の半分でした。

その頃一番ショックだったのが、「毎年あんなところでういる買ってるけど、こんなういろやったらもう絶対買わへんわ」とお客さんに言われたことでした。危機感を感じた私は、製造方法を見直し、自分の手に入れることができるもので最高の材料を仕入れることにしました。そのうち、技術も安定して自分でも納得するういろを作り出せることができるようになって、他のお菓子も評判をとり戻し徐々にお客さんも戻ってきました。

ある日の夕方、母と二人で店番をしている時に、母が「大型スーパーが近くにできて商店街も衰退してくばっかやのに、商店街組合がもっと頑張らんとあかんわ。なんとかならんかのやろか」と愚痴をこぼしていました。

それを聞いて、誰もやらないのなら自分で改革を起こさないとダメだと、都会から商店街に帰ってきていた同級生や年の近い人十人ほどで、「おたっしや緑日」というまちづくりイベントを開催しました。毎回とても好評で、多くのお客さんと賑わっていたのですが、一年半ほど経った時に、商店街のコンサルに来ていた

とても尊敬する方に「こんなに大変なイベントをこのまま続けていったら、お前たちがボロボロになるぞ」と言われてしまいました。そこで、

イベントだけじゃなくて他にもできることがあるはずだと思い、自分の和菓子屋を全国に広めて地元で雇用できる企業になってまちづくりをしようと思った。

初めて従業員を雇い、幕張メッセの物産展に草もちの実演で出るや否や、その物産展はじまって以来の大行列ができました。その様子を見た百貨店バイヤーから催事出店の依頼が来て、都内で何度も出店する機会をいただきました。二〇〇九年に東京駅のエキキュート東京への常設出店が決まり、十五年間東京で商売させていたでいております。

東京に出たことにより様々なご縁をいただき、天皇陛下のご即位記念のお菓子や、星野リゾート様のお土産、J R 東日本のコンビニNEWDAYS様のあんぱんの監修など、多岐にわたる仕事を頂戴しております。そして二〇一八年より東京に住まいを移し、十万人の音楽フェスを地元で開催する夢を掲げ、東京から全国へ繋がりを拡大させております。



株式会社菓匠 緑兵衛代表取締役
居川 信彦氏



近江商人の精神の体現を目指して

プルデンシャル生命保険 部長 東京滋賀県人会 理事 吉田 泰久

私は多賀町で生まれ育ちました。多賀中学、彦根東高校ではスポーツ三昧の生活を送りましたが、都会的な雰囲気憧れ、また、家庭が公務員一家だった反動からかビジネスの世界に憧れ、三商大と言われていた大阪市立大学（現、大阪公立大学）商学部に入りました。大阪での一人暮らしは楽しすぎて、学業そっちのけの大学時代を謳歌しましたが、就職活動が始まると、世界で活躍するビジネスマンになりたいと総合商社への就職を考えるようになりました。

就職活動で企業研究をする中で、日本を代表する伊藤忠商事も丸紅も近江商人である伊藤忠兵衛が創業したと知りました。当時はバブルがはじけた時期で、新人採用が縮小されつつありましたが、奇跡的に丸紅への入社が決まりました。

その新入社員研修で見せてもらった短編映画が、私のその後の社会人生活のすべてに影響を与える衝撃の作品だったのです。

映画のタイトルは「てんびんの詩」。

この作品は「売り手と買い手の気持ちが一致しないと、ものを売ることはできない」という商売の原点を教えてください。※



※「てんびんの詩」のあらすじ等は、こちらをご参照ください <https://tenbinnouta.ciao.jp/>

商売は売る「モノ」も大事ですが、何よりも「人」だと強く刻まれた瞬間でした。商社では希望通り営業に配属になり、建設資材や食品の販売を担当しました。モノが売れることが面白くて楽しくて、その単位が億となるとなんだかワクワクしてなりませんでした。毎年右肩上がりの予算を組まれるものの苦いなるどころか、よしやろう！と、ますますやる気が湧いてきました。

そんな商社を辞めて、固定給なし、100歩歩合給の生命保険営業の世界に飛び込み二十三年が経ちます。商社での仕事は楽しく、充実した日々ではあったのですが、会社のネームバリューで仕事をしているのでは？ という思いとの葛藤の日々でもありました。もつと厳しい環境で自分という人間を磨き、個人の力で勝負がしたいと、無謀にも当時は知名度も無い外資系保険会社に転職してしまいました。生命保険にはお試しも、無料サンプルも無く、お客様からは私という姿しか見えません。形が無く目に見えない無形財、そして、今ではなく未来にしかその価値が発生しない未来財、すなわち無形財×未来財という商品を扱うこととなったのです。

大阪から東京に転勤して一年ばかり。親はもちろん知人、友人もほとんどいない東京で、一体どこに営業に行けばいいのかと、途方にくれた自分をあの時の天秤の少年と重ね合わせ



吉田 泰久氏

せたりもしました。

今となつては多くのお客様や仲間、友人、知人に恵まれ充実した毎日を送らせていただいておりますが、これも、少年のように「自分が」の視点で失敗を繰り返し、時には真剣に怒ってくれるお客様や仲間との出会いがあったからだと思っております。この仕事を始めてから特に、いただいたご縁を大切に、次は自ら誰かに縁をつなぐ、ひたすら地味なリレーを愚直に繰り返せば道は開けることを学びました。

このたびは自分の過去を振り返り、商売の基本をあらためて考える機会をいただいたと感謝しております。「自分が」の視点では商売は成立しない、お客様にとって、世間にとっての視点を忘れることのない近江商人、その「三方よし精神」をもった少年であり続けたと思います。

「神君甲賀伊賀越え 徳川家康の危機をたどる」 日帰りバスツアー開催!

コロナ禍に始まった東京滋賀県人会のリモートイベント「滋賀の歴史夜話」が、十一月二日(土)に現地日帰りバスツアーを開催。NHKやBSの歴史番組でもご活躍の淡海歴史文化研究所所長太田浩司先生のご案内で、甲賀市を中心に八か所の史跡を巡りました。

(主催：(一社)東京滋賀県人会 協力：甲賀市
旅行主催：甲賀市観光まちづくり協会)

JR石山駅に集合した十九名の参加者は、本能寺の変当日、六月二日の夜に徳川家康一行が宿泊した京都府宇治田原町の山口氏館跡からツアースタート。「家康公腰かけの石」が残る遍照院、昨年の大河ドラマ「どうする家康」にも登場した小川城跡など、家康一行が休息したと伝わるお寺や城館跡を見学し、家康の道のりを辿りながら甲賀に入りました。

江戸時代の多羅尾氏の拠点であった多羅尾代官陣屋跡は、近年は春と秋のみの期間限定公開ですが、今回は特別に見学させていただき、甲賀市歴史文化財課の職員の方にご説明いただきました。

多羅尾CCホテルレイクヴィラで昼食をいただいた後は、甲賀伊賀越えの中でも諸説入り乱れる家康の六月四日の行程を追いました。一般的に家康が通ったとされる桜峠の旧道を歩いて当時の峠越えの雰囲気を実感、「どうする家康」で採用された御斎峠や現地に伝承が伝わる五位ノ木峠も車



休憩に立ち寄った朝宮の「茶のみやぐら」さんでは、朝宮茶の風味も濃厚なロールケーキと、お湯を注げばどこでも飲める工夫の詰まったほうじ茶カップをいただきました



和田城館群の案内板の前で解説する太田先生



桜峠で「太田の目」

窓通過や道標見学などを行い、甲南町磯尾にある明王寺では家康から四代家綱までの徳川将軍を記した位牌など、徳川家とのつながりを窺わせる痕跡を確かめました。

ツアーの最後には、甲賀衆の城跡を代表して、甲賀町和田の和田城跡を訪れました。森の中にひっそりと佇む高さ三m近い土塁からは、華やかな石垣や建物の残る彦根城とはまた趣の異なる、静かな迫力が感じられました。

バスはJR石山駅に戻り、解散。一般的な観光ツアーでは訪れないような滋賀の知られざるスポットを回る東京滋賀県人会ならではのツアーに、参加者一同大満足でした。

※より詳細なレポートは東京滋賀県人会ウェブサイトにて ▶▶▶▶▶▶▶▶

※滋賀の歴史夜話 関連回：第4話「徳川家康と近江」▶▶

※動画レポートはこちら! ▶▶▶▶▶▶▶▶



滋賀県の国宝建造物を訪ねる旅(前編)

森岡 進一 (近江八幡市出身)

日本の国宝建造物は、2023年10月1日現在全国に231件あり、奈良県64件・京都府52件・滋賀県22件のトップ3で全体の6割を占め、この3府県は文化財の宝庫で代表的な古い木造建造物が密集しています。有形文化財の建造物の保護は、1897年の古社寺保存法による社寺建築の指定に始まり、城郭や書院等の住宅、更に民家、洋風建築、近代化遺産の指定へと広がってきています。現在の国宝・重要文化財の建造物は、1950年施行の文化財保護法によって指定されています。滋賀県には貴重な文化財が沢山残っています。それがあまり知られていないのが非常に勿体ないといつも感じています。令和6年のカメラで巡

る滋賀県の旅は、文化財の宝庫滋賀県の国宝建造物22件を、2度に分けて巡る旅としました。今回は、長浜市の「琵琶湖に浮かぶ夜は無人の竹生島にある都久夫須麻神社や改修で綺麗になった宝蔵寺唐門」と、大津市の「60年ぶりの大改修中の世界遺産延暦寺根本中堂」、「国宝『智証大師円珍関係文書典籍』『五部心観』が、1100年前から受け継がれた世界最古のパスポートとして2023年「ユネスコ・世界の記憶」に登録された園城寺」と、「2024年NHK大河ドラマ『光る君へ』ゆかりの地と話題の石山寺」等を巡る旅に出かけることにしました

都久夫須麻神社本殿

(所在地:長浜市早崎町) (時代:桃山) (構造形式:桁行三間、梁間三間・二重・入母屋造・前後軒唐破風造付・周囲庇及び正面向拝一間付(総檜皮葺)) (国宝指定:1953年)

琵琶湖に浮かぶ竹生島は、弁財天と観音を祀る神仏習合の場として信仰を集めてきました。神社の創立については明らかではありませんが、最初は地方神の浅井姫命が祀られ、平安時代になって、最澄が弁財天を祀ったとも伝わります。幾度か火災等の災害に遭い、今の国宝「本殿」は1567年に向拝及び庇が再建、1602年に豊臣秀頼が伏見城の建物を寄進して組み合せたもので、三間の身舎部分が伏見城の遺構です。内部の柱の金蒔絵には豊臣家の繁栄を願った桐が見られます。本殿内正面の棧唐戸にはめ込まれた菊や牡丹や鳳凰の彫刻が綺麗です。

宝蔵寺唐門

(所在地:長浜市早崎町) (時代:桃山) (構造形式:一間二戸向唐門 檜皮葺) (国宝指定:1953年)

2013年度より実施されていた国宝「唐門」と、重要文化財(以下重文といえます)「観音堂」、豊臣秀吉が朝鮮出征の時の御座船として建造した日本丸の船やぐらを利用して造られた「舟廊下(渡廊・高屋根)」「渡廊:低屋根」の修復保存事業は2020年春に完了し、美しい姿になりました。宝蔵寺は、奈良時代の高僧・行基が聖武天皇の勅命により、724年、都久夫須麻神社の神宮寺として創建したと云われます。江戸時代



都久夫須麻神社本殿



宝蔵寺唐門

の初め頃まで、天台宗延暦寺の末寺として信仰を寄せられていましたが、以降、真言宗豊山派に転じました。また、明治の神仏分離で都久夫須麻神社と分かれました。現在は、西国観音霊場三十三所の三十三番札所として、多くの参拝客で賑わっています。「本堂(弁財天堂)」の前には「石造五重塔(重文)」があります。唐門は、唐破風をもつ門という意味です。この唐門は、秀吉を祀った京都東山の豊国廟に建っていた極楽門を豊臣秀頼の命により片桐且元を普請奉行として移築したものです。2006年、オーストリアにあるエッゲンベルグ城にて「豊臣期大坂図屏風」が発見され、大坂城に架けられた極楽橋(豊国廟極楽門の移築元)の姿が描かれており、その絵図から判断して、「宝蔵寺唐門」こそが、秀吉が建てた幻の大坂城の唯一の遺構であろうと注目を集めています。



本堂(弁財天堂)



舟廊下



竹生島

延暦寺根本中堂

（所在地：大津市坂本本町）（時代：江戸前期）（構造形式：桁行十一間・梁間六間・一重・入母屋造・瓦葺銅板葺）（国玉指定：1953年）

比叡山延暦寺は三塔十六谷と云い広大な寺院を持つ天台宗の総本山です。比叡山と云う単体の山はなく、滋賀県と京都府にまたがり、ほぼ南北に連なって、北は比良山系、南は如意ヶ岳に接する峰々の総称です。主峰は標高約848mの大比叡ヶ岳です。1994年に世界文化遺産に登録されています。延暦寺が創建されて以来、仏教の聖地として全国から注目され、また、殺生禁断の地と定められてきた為に比叡山全体が天然記念物の指定を受け、野猿・野鳥の天国です。山上は、根本中堂を中心とした東塔、釈迦堂を中心とした西塔、円仁によって開かれた横川の3地区に分かれています。根本中堂は、

現在平成の大改修中（2016年10月～2026年3月迄の予定）です。大改修8年目を迎えて、高さ32mの工用の素屋根にすっぽり覆われていますが拝観出来ず。根本中堂の銅板葺き、廻廊屋根の羽葺きの葺き直し、全体



根本中堂（改修中）



根本中堂の銅板葺き



廻廊屋根の羽葺き



延暦寺根本中堂（改修前）

塗装彩色修理等、今しか見られない国宝建造物の内側が見られます。総本堂である国宝の「根本中堂」は、延暦寺創立と共に建てられました。現在の建物は、1640年に再建されたものです。堂々たる堂宇で、内部は、板敷の外陣・中陣に対し、ご本尊を安置している内陣は、外陣や中陣より3mも低い土間床石敷の小組格天井の格の高い仕様となっています。僧侶が読経・修法する「修行の谷間」と云われます。

内陣中央の「ご本尊」や「不滅の法灯」が立っている床と、お参りする外陣・中陣の床が同じ高さになっています。密教建築の基本的形式を残すもので文化史上重要な遺構です。また、中庭を囲んでコの字形に「根本中堂廻廊（重文）」があります。戦国時代に織田信長によって、焼き討ちに逢いましたが、豊臣秀吉・徳川家康の手によって復興された諸堂は、数多くの国宝・重文の指定を受けており、宝物類も目を見はる物ばかりです。

日吉大社西本宮本殿及び拝殿

（所在地：大津市坂本）（時代：桃山）（構造形式：桁行五間・梁間三間・白吉造・檜皮葺）（国玉指定：1961年）

坂本の町は、日吉大社と延暦寺によって生きてきた町です。西の山手には宏大な日吉大社の神域があり、その外周に延暦寺の多くの里坊、社と寺に仕える人達の住居が立ち並び、そうした人達の支える経済活動がありました。日吉の馬場や権現の馬場の大きな松並木、打ち続く里坊の石垣等、重要伝統的建造物群保存地区として、往時の盛観を思わせます。日吉大社は、全国各地にある3800余の日吉・日枝・山王神社の総本宮です。境内は、東本宮と西本宮の2区域からなります。馬場の参道を進み、大宮川の溪流に架かる日吉大社日吉三橋の「大宮橋（重文）」を渡ると、坂道となって、その上に「山王鳥居」と呼ばれる木造の鳥居が見えてきます。「西本宮楼門（重文）」がありご祭神大己貴神を祀る国宝の「西本宮本殿及び拝殿」があります。現



日吉大社西本宮本殿



楼門



拝殿

在の建物は、1586年に再建されたものです。東には「撰社宇佐宮本殿及び拝殿（重文）」、その東に「撰社白山姫神社本殿及び拝殿（重文）」があります。山裾に沿って進み八王子山の急坂を登ると、向かって右に「撰社牛尾神社本殿及び拝殿（重文）」、左に「撰社三宮神社本殿及び拝殿（重文）」が、それぞれ懸造になって、崖ののり出して建っています。その間にある高さ約10mの岩が金大巖で、この神社の始まりの場所とされています。

日吉大社東本宮本殿及び拝殿

（所在地：大津市坂本）（時代：桃山）（構造形式：桁行五間・梁間三間・白吉造・檜皮葺）（国玉指定：1961年）

金大巖からの坂を下りて林の道を行くと、「東本宮楼門（重文）」があり、ご祭神大山昨神を祀る国宝の「東本宮本殿及び拝殿」があります。現在の建物は、1595年に再建されたものです。拝殿の左手前に「撰社樹下神社本殿及び拝殿（重文）」があります。

園城寺金堂

（所在地：大津市園城寺町）（時代：桃山）（構造形式：桁行七間・梁間七間・一重・入母屋造・向拝三間・檜皮葺）（国玉指定：1953年）



日吉大社東本宮本殿



楼門



拝殿

園城寺は、天台寺門宗の総本山で、三井寺の名で親しまれています。三井寺の名は天智・天武・持統三帝の産湯水を汲んだ霊泉があり、御井の寺の通称が起ったことによります。開基は奈良時代前期とされ、一時荒廃し、858年、天台宗円珍によって再興され、比叡山延暦寺の別院に改められました。その後、天台宗座主の座をめぐり、園城寺寺門派が比叡山の山門派と激しく争いましたが、源氏、足利氏、豊臣氏、徳川氏と時の権力者の崇敬を受けて寺勢を保ち続けました。桃山時代の1595年には豊臣秀吉によって闕所(寺域の没収)を命じられ、堂宇もその殆どが破却されてしまいました。園城寺の現在の堂宇は、豊臣秀吉の遺言の、かつて破却した伽藍の再建(慶長の再建)で行われました。「大門(仁王門)(重文)」は、もと天台宗の古刹常楽寺(湖南市西寺)の門であったものを秀吉が伏見城へ移し、更に徳川家康が寄進したものです。ほぼ同じ経緯を辿っているのが「塔婆(三重塔)(重文)」です。かつて奈良県大淀町にあった比蘇寺の東塔を、秀吉が伏見城へ移し、更に徳川家康が再び移したと伝えられます。「一切経蔵(経堂)(重文)」は、山口県山口市にあった国清寺から毛利輝元によって移



園城寺金堂



大門



鐘楼

されたものです。すぐ右手には「食堂(釈迦堂)(重文)」があり、京都御所の清涼殿から移築されたものと云われます。国宝の「金堂」は、秀吉の正室北政所によって再建され、1599年に上棟された大堂で、圧倒される堂々たる眺めです。本尊弥勒菩薩もここに安置されています。内部は、外陣・中陣・後陣に別れ、中陣は中心となる内陣の両側に脇陣を設けています。左側の奥には「闕伽井屋(重文)」が、東側には「鐘樓(重文)」が、霊鐘堂の南から、「一切経蔵(経堂)」「塔婆(三重塔)」「唐院四脚門」「唐院灌頂堂」「唐院太子堂」「唐院唐門」「毘沙門堂」と数多くの重文建築物が続きます。園城寺は西国観音霊場三十三所の十四番札所でもあり、境内南端の長等山の中腹には札所である「観音堂」があります。金堂などが立ち並ぶ伽藍の中心部に比べ、観音堂の一角には長閑で庶民的な雰囲気がい、多くの参拝客で賑わいます。

勸学院客殿

(所在地: 大津市園城寺町) (時代: 桃山) (構造形式: 桁行七間・梁間七間・一重・入母屋造・妻入・正面軒唐破風付、中門・桁行一間・梁間一間・一重切妻造・総柿葺) (国指定: 1952年)

闕所の解除後、北政所らによって再建が進められ、



勸学院客殿 (NHK 国宝への旅 12 より)



客殿へ



広縁

園城寺の支院である勸学院、日光院の3ヶ寺には要人を迎える為の客殿が建てられました。勸学院客殿は僧侶を、光浄院客殿は武士を、そして日光院客殿は皇族をもてなす為の施設であったと云われます。但し、このうち日光院はすでに壊され、その客殿は現在護国寺(東京)に移築されています。勸学院は、園城寺山内塔頭寺院の一つです。園城寺の学問所として1239年に幸尊僧正によって創建されました。幸尊は龜山天皇や北条時頼の帰依を受けた高名な学僧で、勸学院は創建以降も優れた学僧が住したことから天台の「碩学の名室」と称されてきました。現在の建物は、1600年に豊臣秀頼が施主となり、毛利輝元によって再建されました。狩野光信による華麗な障壁画が部屋を飾っています。桃山時代を代表する初期書院造の代表的遺構として国宝に指定されています。池泉式庭園は趣向が凝らされ国指定の名勝になっています。拝観は3名以上で事前予約が必要です。

光浄院客殿

(所在地: 大津市園城寺町) (時代: 桃山) (構造形式: 桁行七間・梁間六間・一重入母屋造・妻入・正面軒唐破風付、中門・桁行一間・梁間一間・一重切妻造・総柿葺) (国指定: 1952年)



光浄院客殿



石垣



広縁

園城寺の北院、長等山の北麓の森の中に南面してひっそり建っています。智証大師所縁の新羅明神坐像(国宝)を安置するお堂です。1595年の秀吉による破却の為、山内にはそれ以前の建立になる建築は極めて少ないのですが、このお堂は足利尊氏による再興の伝えを持つ社殿で、1347年頃の造立とされています。木割りの太い伝統的な流造本殿のなかに繊細な格子戸・欄間彫刻が見事な調和を保った格式高い意匠を見せています。

石山寺本堂

(所在地：大津市石山寺) (時代：平安後期) (構造形式：本堂 桁行七間・梁間四間、相の間 桁行一間・梁間七間、礼堂 懸造 桁行九間・梁間四間、本堂及び礼堂 寄棟造 両棟を相の間の屋根でつなぎ礼堂の棟をこえて破風をつくる) (国宝指定：1952年)

聖武天皇の命で創建され、8世紀半ばに改修された官立寺院です。平安期には淳祐(じゆんすけ)らが入寺して真言宗の学問寺としての性格を強める一方、現在も参拝者が絶えない、西国観音霊場三十三所の十三番札所観音霊場として貴族層の信仰を集めました。平安時代には、宮廷の女人達の間で石山詣が盛んで、本堂



新羅善神堂

色を良く伝える作品群として重文に指定されています。拝観は3名以上で事前予約が必要です。

園城寺新羅善神堂

(所在地：大津市園城寺町) (時代：室町前期) (構造形式：桁行三間・梁間二間・一重・流造・向拝一間・檜皮葺) (国宝指定：1953年)



石山寺本堂 (中央は源氏の間)



東大門



懸造本堂

の東側に建つ「観音堂」に参籠し、一夜を過ごすことが流行りました。清少納言、和泉式部等が石山寺のことを作品に描いており、女流文学の開花の舞台となりました。中でも紫式部が当地で『源氏物語』を着想したとする説は広く知られており、今でも本堂には「源氏の間」と名付けられた部屋があります。本堂を中心に、重文の御影堂・三十八所権現社本殿・蓮如堂・経蔵・東大門・鐘楼・宝篋印塔等見所一杯です。「光る君へ」びわ湖大津 大河ドラマ館」が、来年1月末迄石山寺に設けられています。

石山寺多宝塔

(所在地：大津市石山寺) (時代：鎌倉前期) (構造形式：三間多宝塔、檜皮葺) (国宝指定：1951年)

本堂東側の珪灰石背後の一段高い平坦地に建っています。源頼朝による寄進と伝えられ、1194年に建立された日本最古の多宝塔です。多宝塔は、上層の塔身が円筒形で下層の塔身が四角形になっている塔で、造るのはとても難しい塔と云われます。国宝の多宝塔は、他に5件あり、日本三大多宝塔は、和歌山県高野町の金剛三昧院と広島県尾道市の浄土寺とこの石山寺です。珪灰石は、水の底で石灰岩と花崗岩が熱作用によって溶け合い、一つの層となって地表に表出している世界的にも珍しい石で、この山全体を珪灰石が覆っており、国の天然記念物に指定されています。



多宝塔と珪灰石

事務局より

●東京滋賀県人会ウェブサイト

<https://imashiga.jp/>

令和5年10月にリニューアルオープン！
より見やすく、わかりやすくなりました！
県人会の活動・行事の紹介や滋賀の魅力・
歴史・文化を紹介するブログも更新中！



●東京滋賀県人会Facebook

<https://www.facebook.com/東京滋賀県人会-1013229665488825/>

「ここ滋賀」や歌舞伎座で開催するイベント
の最新情報などはこちら！



●YouTube 東京滋賀県人会チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCpiN-9K5TmCqdO7wyEW5Kgw>

県人会のイベントのほか、ふるさと滋賀の
風景・バーチャル寺社参拝など、県人会な
らではの動画コンテンツも充実！



●HP・会報誌への投稿募集

東京滋賀県人会では、会員の皆様からの近況報告、趣味、
旅行、日本社会や世界への提言、随想など、バラエティー
豊かな投稿記事を募集しています。

現在、特に俳句・川柳などの投稿を大募集しています。投
稿いただいた記事は東京滋賀県人会ウェブサイトに掲載し、
その中から選りすぐったものを会報誌にも掲載いたします。
皆様のご投稿をお待ちしております。

(HPに掲載された方には、東京滋賀県人会オリジナルQUO
カード1000円分を進呈いたします)

投稿先は：

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-20

グランスイート東日本橋スクウェア205号室

東京滋賀県人会事務局 会報誌担当

Mail : tokyo@shigakenjinkai.jp

●編集後記

1月から、紫式部を主人公に据えた大河ドラマ「光る君へ」
が始まりました。平安時代中期というこれまでに描かれたこと
のない、登場人物のほとんどが藤原氏になりそうな時代が舞台
ですが、2月上旬時点では平安貴族たちの陰謀・政治劇が描か
れつつも源氏物語からの引用がちりばめられるなど、これまで
にない大河ドラマの気配を感じます。いよいよ大河ドラマ館も
オープンした石山寺も登場予定とのこと、どのような形になる
のでしょうか。

東京滋賀県人会 法人会員の皆様のご紹介 (令和6年3月現在)

アインズ(株)東京支店	千代田区	滋賀県東京本部	千代田区
Ascent Business Consulting(株)	港区	(株)静永事務所	港区
(株)鮎家	野洲市	清水惣(株)	千代田区
(株)老三壺	京都市中京区	社会保険労務士法人久禮事務所	世田谷区
伊藤忠商事(株)	港区	昭和西川(株)	中央区
(株)永昌堂	中央区	(株)数寄和	杉並区
エステックサービス(株)	大田区	ゼッターリンクス(株)	荒川区
ENWA(株)	大阪市西区	(株)大生産業	野洲市
(株)近江ミネラルウォーターサービス	大津市	(株)高島屋日本橋店	中央区
太田酒造(株)東京営業所	足立区	たねやグループ	近江八幡市
大塚オーミ陶業(株)	千代田区	チョーギン(株)	墨田区
大星岡村(株)	中央区	(株)トランプ	港区
(株)叶匠寿庵	大津市	中田商店	八王子市
(株)鹿深サービス	甲賀市	(株)ナカノアパレル	中央区
川島酒造(株)	高島市	長浜浪漫ビール(株)	長浜市
木村水産(株)	彦根市	(株)西川	中央区
丘峰喫茶店・能美舎	長浜市	日本ロジテム(株)	港区
協同組合ビジネス21支部	港区	(株)布引焼窯元	東近江市
(一財)近畿健康管理センター東京事業部	江東区	農事組合法人グリーンティ土山	甲賀市
元三フード(株)	大津市	(一財)東日本橋真宗会堂維持財団	中央区
(有)甲賀もち工房	甲賀市	(公社)びわこビジターズビューロー	大津市
江州技研(株)	台東区	(株)びわこフード	近江八幡市
(株)光洋社	新宿区	(株)マルヨシ近江茶	甲賀市
(公財)湖国協会	武蔵野市	メルクロス(株)	中央区
こころ農園	大津市	森島商事(株)	竜王町
(株)三和開発	米原市	柳屋ビルディング(株)	中央区
滋賀近交運輸倉庫(株)	長浜市	ヤマ庄陶器(株)	甲賀市
(株)滋賀銀行東京支店	中央区	楽入陶房 壺中庵	甲賀市
滋賀県青年団体連合会	大津市	(株)RoseUniverse	守山市

(五十音順敬称略)